

学校現場から悲鳴が聞こえる

第1回 「偽りの美しさにひれ伏す学校社会」

会員の中には元教職員だった人がたくさんいます。退職後4～5年もすると「今の教育現場がどうなっているのかわからない」という声を聞きます。また、子育てが終わり教育現場から遠ざかった父母の方もいます。子どもが学校に通っていた時は矛盾を感じていても、卒業してしまうとそのことも忘れてしまうことがあります。

いじめ、体罰、教職員の非行、管理教育の強化、受験体制強化などさまざまな問題が山積していますが、現場の生の声をお届けすることで教育現場をより深く理解していただきたいと思い、新シリーズをスタートさせました。第1回はベテラン教師二人に登場していただきました。

学校評価アンケート

記者「お二人とも浮かない顔をしていますね。」

A氏「もうね、呆れて嫌になる。退職したあなたが羨ましい。」

B氏「いやね、あなたも経験あるでしょうが、10年ほど前から保護者や生徒から学校評価アンケートをとることになったでしょ。『少人数学習についてどう思いますか?』とか『校則を守って学校生活をしていますか?』とか質問するやつですよ。今年、ほとんどの公立学校の生徒アンケートで、『あなたは、この〇〇高校が好きですか?』という質問項目が最後に入り、①好き ②どちらかという好き ③どちらかという嫌い ④嫌いの4択から一つ選び、その理由も答えさせているんだ。半年に1度、卒業までに6回答えさせ、データ化されていく。そしてデータは県に報告される。」

記者「そうそう、やりましたね。パソコンに入力するのに担当者は相当のエネルギーが使わ



されていた。」

B氏「無駄な労力に付き合わされているだけではなく、すでにある高校では、2年生だけが④嫌い・③どちらかといえば嫌いを合計すると50%を超えているのはどうしてだ、何とかならないのか、と運営委員会で学年主任が詰め寄られているという報告があった。施設も劣悪でクーラーすらないなどの格差が公立高校でも看過できないほどすすむなかで、内心の自由に関わる好き・嫌いを学校が問いただした上で結果にいちやもんつけるなんて傲慢じゃない?」

記者「確かに。」

B氏「でも、この質問に素直に答える生徒もいて、学校が好きと答えている生徒の多くは、『みんながいるから』、『友達がいるから』、『友達に恵まれた』、『よくわからないけれど普通に生活できているから』を理由にあげている。嫌いの理由は、友人関係の悩みやクーラーがない、規則が厳しすぎるなどが多い。でも無記入・白紙という生徒も一定数いるんだ。たぶん答えにくいのだと思う。やはりこの質問項目は失礼ではないだろうか。ましてや、50%超の嫌いを何とかせよなんて。偉い人たちは、生徒達はみな学校を好きだと思っているはずだという幻想を抱いているのだろうか。いろいろな課題をもつ学校が一樣に好かれることってありえないよね。偽りの美しさだよ。それを求めろってのはあまりに無茶だ。」

記者「こういったことに先生方からはどういった意見が出ているの。」

B氏「職員会議でも氷のような雰囲気の中かで、『この項目はおかしい』と言うのが精一杯だね。」

記者「それだけでも貴重な発言だと思いますよ。学校を離れた私にとっては救われる一言です。先生方には職員会議の場でもっともっと意見を表明して欲しいですね。ふだんから生徒達に『自分の意見をはっきり主張しなさい』って指導しているわけですから。」

職員会議

A氏「職員会議のことなら言いたいことが山ほどある。管理職は職員に対し様々な指示をしてくる。最近では職員の見解も聞かず、職員の見解があってもすべて校長が決定する。こんな風だから突然職員に何の相談もなく教育課程を変更したり、授業時間数を変更したりする。本来、こういうことは職員会議でじっくりと議論して決めるものではないでしょうか。それを頭越しに決められてしまうと教職員は右往左

往する。教育課程の変更は人事にも影響する。たとえば社会の授業が減る変更があれば社会の教員がいなくなる。第一、生徒にどんな科目を何時間教えるかという学校の基本方針を議論する余地がないというのは考えられない。どうしても良いことは議論されても肝心なことは議論されない。これでは生徒も職員も白けてしまうよ。」

記者「不満はあってもなかなか言えない職員が多くなっているね。」

A氏「校長先生は『リーダーシップを発揮せよ』と言われていた。確かに校長先生は学校のリーダーだ。豊かな経験と説得力のある見識で職員を引っ張って行ってほしいと思うよ。でもね、独断専行とリーダーシップは違う。全然違う。職場の意見を聞こうとしないやり方はまさに偽りのリーダーシップだ。ついていけない。」

B氏「偽りの美しさや偽りのリーダーシップに学校現場はひれ伏す寸前なんだ。あーあ、冬のドリームジャンボ宝くじでも当たれば退職できるかな。」

不満はまだまだたくさんある

記者「Aさんの不満はまだまだたくさんあります。なので次回で取り上げようと思います。」

A氏「部活動の指導や生活指導など、時間外勤務が当たり前のように行われている。古くて新しい問題だけども言わせてもらいたいね。」

つづく

